

作成日：2013年7月1日

改訂日：2020年7月1日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

| | |
|-------------------|------------------------------|
| 化学品の名称 | 酸化LDL イライザ「第一」 基質液（体外診断用医薬品） |
| 供給者の会社名称、住所及び電話番号 | 積水メディカル株式会社 |
| 住所 | 茨城県龍ヶ崎市向陽台三丁目3番1号 |
| 電話番号 | 0297-62-7551 |
| FAX 番号 | 0297-62-5238 |
| 整理番号 | 09-02-04 |

2. 危険有害性の要約

| | |
|-------------|---------------------------------------|
| 化学品の GHS 分類 | |
| 健康に対する有害性 | 皮膚腐食性／刺激性 区分 3 |
| | 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分 2B |
| | 生殖毒性 区分 1B |
| | 特定標的臓器毒性（単回ばく露） 区分 1（中枢神経系、呼吸器、腎臓、心臓） |
| | 特定標的臓器毒性（反復ばく露） 区分 1（中枢神経系、呼吸器、心臓） |

上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しない、分類対象外又は分類できないに該当する。

GHS ラベル要素：
シンボル



| | |
|---------|--|
| 注意喚起語 | 危険 |
| 危険有害性情報 | H316：軽度の皮膚刺激。 H320：眼刺激。 H360：生殖能または胎児への悪影響のおそれ。 H370：臓器（中枢神経系、呼吸器、腎臓、心臓）の障害。 H372：長期にわたる、または反復ばく露による臓器（中枢神経系、呼吸器、心臓）の障害。 |

注意書き：

【安全対策】

P201：使用前に取扱説明書を入手すること。
P202：すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P260：ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P264：取り扱い後はよく手を洗うこと。
P270：この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
P280：保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

P332 + P313：皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
P305 + P351 + P338：眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

- 【保 管】
【廃 棄】

P337 + P313：眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。
P308 + P311：ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
P314：気分が悪い時は、医師の診察/手当を受けること。
P405：施錠して保管すること。
P501：内容物/容器を、国際/国/都道府県/市町村の規則（明示する）に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

| 化学物質・混合物の区別 | | 混合物 | |
|-------------|--------------|---------------------|------------|
| 化学名又は一般名 | 濃度又は濃度範囲 (%) | 官報公示番号 (化審法・安衛法) | CAS 番号 |
| エチレングリコール | 10 | 2-230 | 107-21-1 |
| ProClin 300 | <0.1 | 5-5235 9-378 | 55965-84-9 |

4. 応急措置

- 吸入した場合
皮膚に付着した場合
目に入った場合
飲み込んだ場合
予想される急性症状及び遅発性症状
応急措置をする者の保護

吸入した場合：新鮮な空気のある場所に移すこと。気分が悪い時は医師の診断を受けること。
皮膚についた場合：ただちに多量の水と石鹼で洗うこと。炎症が生じ、続く場合には医師の手当てを受けること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯をすること。
目に入った場合、数分間目を付けて洗浄する。もしコンタクトレンズを装着していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。ただちに医師の手当てを受けること。
口をすすぐこと。ただちに医師もしくは毒物管理センターに連絡すること。医師の指示がない場合には、無理に吐かせないこと。
急性症状：軽度の皮膚刺激。眼刺激。
遅発性症状：生殖能または胎児への悪影響のおそれ。臓器(中枢神経系、呼吸器、腎臓、心臓)の障害。長期にわたる、または反復ばく露による臓器(中枢神経系、呼吸器、心臓)の障害。
個人用保護具を着用すること。

5. 火災時の措置

- 消火剤
使ってはならない消火剤
特有の危険有害性
特定の消火方法
消火を行う者の保護

周辺火災の種類に応じて粉末/二酸化炭素消火器、乾燥砂などを用いる。
棒状注水
加熱に容器が破裂するおそれがある。火災によって刺激性、腐食性または毒性ガスを発生するおそれがある。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。消化後も大量の水を用いて容器を十分に冷却する。
消火作業は風上から行う。個人用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺にロープを張るなど関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないよ

| | |
|---------------|---|
| 環境に対する注意事項 | うにする。風上から作業して風下の人を避難させる。作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 |
| | 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。その他の環境情報については「12. 環境影響情報」の項を参照して下さい。 |
| | 乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。危険でなければ漏れを止める。 |
| 封じ込め、浄化方法及び機材 | 環境規制に従って汚染された物体及び場所をよく洗浄する。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 |
| 二次災害の防止策 | |

7. 取り扱い及び保管上の注意

| | |
|-----------|---|
| 取扱い | |
| 技術的対策 | 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 |
| 安全取扱い注意事項 | 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。使用後は容器を密閉する。取扱後は手をよく洗うこと。指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。皮膚、眼、衣服との接触を避ける。個人用保護具を着用すること。 |
| 接触回避 | 「10. 安定性及び反応性」の項を参照 |
| 衛生対策 | 取扱後は手をよく洗うこと。本品を使用する時に飲食、喫煙をしてはならない。 |
| 保管 | |
| 安全な保管条件 | 直射日光を避け、冷所（2～10℃）で密閉して保管する。 |
| 混触危険物質 | 酸化剤、酸性物質、金属から離して保管すること。 |
| 安全な容器包装材料 | 製品本来の容器で保管すること。 |

8. 暴露防止及び保護措置

| | |
|------------|---|
| 管理濃度 | 設定されていない |
| 許容濃度 | |
| 日本産業衛生学会 | 設定されていない |
| ACGIH | エチレングリコール（CAS：107-21-1） Ceiling: 100mg/m ³ aerosol only |
| 設備対策 | 屋内作業場での使用の場合は局所排気装置を使用する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗顔設備を設け、その位置を明瞭に表示する。 |
| 保護具 | |
| 呼吸器の保護具 | 保護マスク |
| 手の保護具 | 保護手袋。 |
| 眼の保護具 | 側板付き保護眼鏡（必要によりゴーグル型又は全面保護眼鏡） |
| 皮膚及び身体の保護具 | 適切な保護衣を着用すること。保護長靴。 |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|------------------------|-----------|
| 物理状態 | 液体 |
| 色 | 微黄色～微黄色透明 |
| 臭い | データなし |
| pH | 7.0 (25℃) |
| 融点／凝固点 | － |
| 沸点又は初留点及び沸点範囲 | データなし |
| 可燃性 | データなし |
| 爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界 | データなし |
| 引火点 | データなし |
| 自然発火点 | データなし |
| 分解温度 | データなし |
| pH | データなし |
| 動粘性率 | データなし |
| 溶解度 | － |
| n-オクタノール／水分配係数 (log 値) | － |
| 蒸気圧 | データなし |
| 密度及び／又は相対密度 | 1.019 |
| 相対ガス密度 | データなし |
| 粒子特性 | データなし |
| その他のデータ | なし |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|---------------------|
| 反応性 | 通常の条件下では反応性はない。 |
| 化学的安定性 | 通常の取扱い条件においては安定である。 |
| 危険有害反応可能性 | データなし |
| 避けるべき条件 | 高温と直射日光 |
| 混触危険物質 | データなし |
| 危険有害な分解生成物 | データなし |

11. 有害性情報

| | 成分の有害性情報 | 製品 |
|------------|--|----------|
| 急性毒性（経口） | エチレングリコール（CAS：107-21-1）： 急性毒性（経口）LD ₅₀ ：4000-10200 mg/kg（ラット） （CICAD 45（2002）） ProClin 300（CAS：55965-84-9）： 急性毒性（経口）LD ₅₀ ：53 mg/kg（ラット）（ChemIDPlus） 製品：区分外 | 区分に該当しない |
| 急性毒性（経皮） | エチレングリコール（CAS：107-21-1）： 急性毒性（経皮）LD ₅₀ ：10600 mg/kg（ウサギ）（CICAD 45（2002）） | 区分に該当しない |
| 急性毒性（吸入） | 分類できない。 | 分類できない |
| 皮膚腐食性/刺激性 | エチレングリコール（CAS：107-21-1）：区分3（CICAD 45（2002）） | 区分3 |
| 眼に対する重篤な損傷 | エチレングリコール（CAS：107-21-1）：区分2B（CICAD | 区分2B |

| | | |
|------------------|--|------------------------|
| 性/眼刺激性 | 45 (2002)) | |
| 呼吸器感受性 | 分類できない。 | 分類できない |
| 皮膚感受性 | ProClin 300 (CAS : 55965-84-9) : 区分 1 (EC CLP, C \geq 0.0015%) | 分類できない |
| 生殖細胞変異原性 | 分類できない。 | 分類できない |
| 発がん性 | 分類できない。 | 分類できない |
| 生殖毒性 | エチレングリコール (CAS : 107-21-1) : 区分 1B (CICAD 45 (2002)) | 区分 1B |
| 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) | エチレングリコール (CAS : 107-21-1) : 区分 1 (中枢神経系、呼吸器、腎臓、心臓) (CERI ハザードデータ集 97-24 (1998)) | 区分 1 (中枢神経系、呼吸器、腎臓、心臓) |
| 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) | エチレングリコール (CAS : 107-21-1) : 区分 1 (中枢神経系、呼吸器、心臓) (環境省リスク評価書 第3巻 (2004)) | 区分 1 (中枢神経系、呼吸器、心臓) |
| 誤えん有害性 | 分類できない。 | 分類できない |

12. 環境影響情報

生態毒性

ProClin 300 (CAS : 55965-84-9) :

魚類 (Brachydanio rerio) 96 時間 LC₅₀ =0.27 mg/L (e-ChemPortal; HSN0)

エチレングリコール (CAS : 107-21-1) :

魚類 (ニジマス) の 96 時間 LC₅₀ =47000mg/L (環境省リスク評価書 第3巻 (2004))

製品：水生環境急性有害性：区分に該当しない、水生環境慢性有害性：区分に該当しない

残留性／分解性

データなし

生体蓄積性

データなし

土壌中の移動性

データなし

オゾン層への有害性

データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

ごく少量を排水口より廃棄する場合は、配管を傷めるので大量の水と共に洗い流す。大量の場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を依頼する。使用した容器は、水で十分洗浄した後、分別廃棄する。

14. 輸送上の注意

国内規制

国連分類

非該当

国連番号

非該当

品名

非該当

容器等級

非該当

陸上輸送 消防法

非該当

海上輸送 船舶安全法

非該当

航空輸送 航空法

非該当

特別の安全対策

「7. 取扱い及び保管上の注意」の記載に従うこと。輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどが無いことを確認する。転倒、落下、損傷がないよう

に積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

| | |
|----------------------|-------------------|
| 国際規制 | |
| 海上規制情報 | IMO の規定に従う。 |
| 航空規制情報 | ICAO/IATA の規定に従う。 |
| UN No. | 非該当 |
| Proper Shipping Name | 非該当 |
| Class | 非該当 |
| Packing Group | 非該当 |
| Marine Pollutant | 非該当 |
| Pictogram | 非該当 |

15. 適用法令

| | |
|-------------------------------|--|
| 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) | 非該当 |
| 労働安全衛生法：名称等を通知 すべき危険物及び有害物 | エチレングリコール (CAS : 107-21-1) : 政令第 18 条の 2 別表第 9 対象となる範囲 (重量%) ≥ 1 |
| 毒物及び劇物取締法 | 非該当 |
| 医薬品医療機器等法 | 体外診断用医薬品 |
| 消防法 | 非該当 |
| 船舶安全法 | 非該当 |
| 航空法 | 非該当 |

16. その他の情報

| | |
|------|--|
| 引用文献 | 1) 製品評価技術基盤機構 http://www.nite.go.jp/chem/ghs/ghs_index.html 2) 厚生労働省 職場のあんぜんサイト http://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/GHS_MSD_FND.aspx 3) GHS に基づく化学品の分類方法 (JIS Z7252 : 2019) 4) GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場の表示及び 安全データシート (JIS Z7253 : 2019) |
| その他 | 本データシートは作成年月日での製品情報を記載しておりますが、すべての情報を網羅しているものではありません。新たな情報を入手した場合には追加又は訂正されることがあります。記載されている内容は、安全な取扱いを確保するための情報であり、いかなる保証をなすものではありません。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願い申し上げます。 |
| 改訂履歴 | 第 1 版 : 2013 年 7 月 1 日 第 2 版 : 2016 年 6 月 1 日 第 3 版 : 2016 年 6 月 24 日 第 4 版 : 2020 年 7 月 1 日 |

*****終わり*****